

# SS

無線レーザーリーダー

# CTR-700

標準アプリケーション

**ユーザーズマニュアル**

## 商標について

Microsoft、MS、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。  
Windows は、米国 Microsoft Corporation の商標です。  
その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

# 目次

はじめに.....	v
マニュアル構成.....	v
表記上の注意.....	v
<b>第1章 起動の前に.....</b>	<b>1</b>
1-1 動作の流れ.....	2
1-1-1 アプリケーションの起動.....	2
1-1-2 データの入力.....	2
1-2 標準アプリケーションと CTR-S for WinSock.....	3
1-3 標準アプリケーションと Welpack-S.....	3
1-3-1 バージョンによる互換性について.....	4
1-4 データを入力する前に.....	5
1-5 メモリバックアップ期間.....	6
1-6 保守に際してのご注意.....	6
<b>第2章 データの入力.....</b>	<b>7</b>
2-1 基本操作.....	8
2-2 バーコード入力モード.....	9
2-3 マニュアル入力モード.....	9
2-4 ステータス行.....	10
2-5 ファンクションキー.....	12
2-6 データ入力時の注意.....	14
データ転送モードを「レコード送信」に設定する.....	14
レコード確定モードを「確認あり」に設定する.....	14
レスポンスモードを「レスポンスあり」に設定する.....	15
<b>第3章 データの送受信.....</b>	<b>17</b>
3-1 データの送信（子機からコンピュータへ）.....	18
3-1-1 送信レコード数.....	18
3-1-2 レスポンスモード.....	18
3-1-3 未送信レコード.....	19
3-1-4 送信エラー.....	19
3-2 データの受信（コンピュータから子機へ）.....	20
3-2-1 レスポンスモード.....	20
3-2-2 受信エラー.....	20

第4章 環境設定 .....	23
4-1 設定モード .....	24
動作モード .....	24
データファイル .....	24
パラメータ .....	25
システム .....	25
4-2 設定メニューの操作方法 .....	25
4-3 動作モードの設定 .....	26
4-3-1 データ転送モード .....	27
4-3-2 トリガモード .....	28
4-3-3 パワーセーブモード .....	28
4-3-4 入力切り替えモード .....	29
4-3-5 レコード確定モード .....	29
4-3-6 レスポンスモード .....	30
4-3-7 自動データ削除モード .....	30
4-3-8 二度読み禁止モード .....	31
4-3-9 プリンタ出力モード .....	31
4-4 データファイルの操作 .....	32
4-4-1 ファイル情報 .....	32
4-4-2 ファイル送信 .....	32
4-4-3 ファイル受信 .....	33
4-4-4 ファイル削除 .....	33
4-5 パラメータの操作 .....	34
4-5-1 起動パラメータ .....	34
4-5-2 パラメータ切替 .....	35
4-5-3 パラメータ情報 .....	35
4-5-4 パラメータ受信 .....	36
4-5-5 パラメータ削除 .....	36
4-6 システムの設定 .....	37
4-6-1 バージョン情報 .....	37
4-6-2 システムメニュー .....	37
4-6-3 オートパワーオフ時間 .....	37
4-6-4 バックライト点灯時間 .....	37
第5章 登録メッセージ .....	39
5-1 登録メッセージの概要 .....	40
5-2 登録メッセージの送信 .....	40

第 6 章	こんなときは	41
6-1	警告が表示されたとき	42
6-1-1	バッテリー電圧の低下	42
6-1-2	未送信レコード	42
6-1-3	メモリの不足	43
6-1-4	ファイル領域の不足	43
6-1-5	無効なファイル名	43
6-2	正常に動作しないとき	44
付録 1		49
	データ入力用バーコード <アルファベット>	50
	データ入力用バーコード <アルファベット>	51
	データ入力用バーコード <アルファベット>	52
	データ入力用バーコード <記号>	53
付録 2		55
付録 2-1	エスケープシーケンス	56
付録 2-2	拡張エスケープシーケンス	59
付録 3		63
付録 3-1	イベントメッセージの概要	64
付録 3-2	コマンドリファレンス	64
索引		65

# はじめに

---

この度はSS無線レーザーリーダー「CTR-700-01」、「CTR-700-02」をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。

このマニュアルは「CTR-700-01」および「CTR-700-02」に搭載されている標準アプリケーションプログラムについて説明するものです。お客様の業務の効率化にCTR-700がお役に立てれば幸いに存じます。

## マニュアル構成

「CTR-700-01」および「CTR-700-02」のマニュアルはそれぞれ2冊で構成されます。

「ハードウェア/システムメニュー」ユーザズマニュアル

「標準アプリケーション」ユーザズマニュアル(本書)

## 表記上の注意



参照事項を表わします。



注意事項を表わします。

CTR-700

特に記さない限り、CTR-700-01 および CTR-700-02 を指します。

「子機」

特に記さない限り、CTR-700 を指します。

「親機」

特に記さない限り、CTR-700-M1 を指します。

「光通信ユニット」

特に記さない限り、HIF-01 および HIF-51 を指します。

「光アダプタケーブル」

特に記さない限り、HOP-C001 ~ C003 を指します。



「プリンタ」

特に記さない限り、(株)サトー製プリンタ M-3100 を指します。

「コンピュータ」

親機を接続するホストコンピュータやパソコンの総称です。

 (  ) キー

Enter キーを指します。CTR-700-01 では 、CTR-700-02 では  キーを指します。

特に記さない限り、本文中の子機画面イラストおよびキーイラストは「CTR-700-01」のものであります。



## 第1章 起動の前に



## 1-1 動作の流れ

---

### 1-1-1 アプリケーションの起動

Ⓧを押して子機の電源を入れます。出荷時設定では、標準アプリケーションのデータ入力待ち状態になります。データを入力する場合は、こちらを起動します。読み取りスイッチを押しながらⓍを押すと、各種設定を行うシステムメニューが起動します。Ⓧを押したときに起動するアプリケーションプログラムは、システムメニューで変更することができます。

### 1-1-2 データの入力

データを入力するときの基本的な操作は、次の通りです。

読み取りスイッチを押す

読み取りスイッチを押すとレーザーが点灯します。読み取りスイッチの操作方法にはいくつか種類があり、設定メニューで変更することができます。

バーコードを読み取る

バーコードにレーザーを照射してデータを読み取ります。読み取ったデータはファイルに保存されます。複数のデータ（BOX）を1つのレコードにまとめることもできます。出荷時設定では1レコードにつき1データを入力します。バーコードのほかに、テンキーを使ったマニュアル入力もできます。

データを送信する

データの入力が終わったらコンピュータに送信します。読み取ったデータはファイルに保存されていますので、設定メニューを使ってファイルを送信します（バッチ処理モード）。指定した数のレコードが揃ったら自動的に送信するように設定することもできます（リアルタイム処理モード）。

ジャーナルを出力する

入力したデータを専用のプリンタ（㈱サトー製プリンタ M-3100）に出力して、記録することができます。プリンタへの出力は、レコードが確定した時点で自動的に行われます。この機能は、CTR-700-01 を HOP-C011 でプリンタに接続した時のみ有効な機能です。

このほかにも、データを送信した後にコンピュータからの応答を待ったり、一定時間操作されないときは電源を切ったりなど、業務を効率化するためのさまざまな設定ができます。

## 1-2 標準アプリケーションと CTR-S for WinSock

---

SS 無線システムでは、コンピュータにサーバプログラムを導入する必要があります。標準アプリケーションは、コンピュータ上で別売の「CTR-S for WinSock」を使用したサーバプログラムが実行されていることを前提としています。

CTR-S for WinSock の本体は ActiveX コントロールになっており、通信プロトコルの複雑な部分をすべて処理しますので、Microsoft 社の Visual Basic などを使用すると、業務内容に合わせたサーバプログラムを容易に作成できます。



詳細は別売のソフトウェア「CTR-S for WinSock」のユーザーズマニュアルをご覧ください。

---

## 1-3 標準アプリケーションと Welpack-S

---

標準アプリケーションは出荷時に子機に搭載され、子機の電源を入れると自動的に起動します。このアプリケーションプログラムは、子機を使って基本的なデータの入力、送信を行うためのものです。次の設定は子機本体のみで変更することができます。

- ・データ転送モード.....転送単位をレコードまたはファイルに切り替えます。
- ・トリガモード.....読み取りスイッチの動作を切り替えます。
- ・パワーセーブモード.....消費電流を抑えるための設定です。
- ・入力切り替えモード.....テンキーを押したとき、自動的にマニュアル入力できます。
- ・レコード確定モード.....レコードを確定する前に確認できます。
- ・レスポンスモード.....データを送信した後、コンピュータからの応答を待ちます。
- ・自動データ削除モード...データを送信した後、ファイルを自動的に削除します。
- ・二度読み禁止モード.....同じデータを連続して読み取らないようにできます。
- ・プリンタ出力モード.....プリンタ（別売）でジャーナルを出力することができます。
- ・オートパワーオフ時間...設定した時間の間に操作がないと自動的に電源を切ります。
- ・バックライト点灯時間...バックライトを点灯する時間を設定できます。

標準アプリケーションをより細かく設定したい場合は、別売の「パラメータ設定ソフト Welpack-S」を使用します。パラメータ設定ソフト Welpack-S は、標準アプリケーションをカスタマイズするための専用ソフトウェアです。パラメータ設定ソフト Welpack-S では前記に加え、次の設定ができます。

- ・ ガイダンスメッセージ...各局面におけるメッセージをカスタマイズできます。
- ・ 登録メッセージ..... コンピュータに送信するメッセージを登録できます。
- ・ 読み取りコード.....読み取り可能なコード体系を設定できます。
- ・ ファイル形式.....ID レコードや EOF コードを付加できます。
- ・ レコード形式..... データ数や書式などをカスタマイズできます。
- ・ マッチング検査機能.....データを比較して無効なデータの入力を抑制できます。
- ・ 検索機能.....入力したデータをキーとしてファイルを検索できます。

Ver.1.10 以降ではさらに次の設定ができます。

- ・ 画面プレビュー.....メッセージを表示する画面をプレビューできます。
- ・ BOX 送信.....BOX 単位でのデータ送信を行なうことができます。

### 1-3-1 バージョンによる互換性について

Welpack-S と CTR-700 標準アプリケーションのバージョンの組み合わせで、以下のように機能の制限があります。

		Welpack-S	
		Ver.1.03 以前の パラメータ	Ver.1.10 以降の パラメータ
CTR-700	Ver.1.14 以前	問題なし	問題なし
標準 AP	Ver.1.20 以降	問題なし	新機能の動作が可能

新機能とは Welpack-S Ver.1.10 以降から設定可能になった機能のことで、標準アプリケーションでは Ver.1.20 以降において有効になります。

Welpack-S 単体で、次のような使い方をする場合に注意してください。

ここでは、便宜上、Welpack-S を以下のように呼びます。

- ・ Welpack-S Ver.1.03 以前 (旧 Welpack) により作成されたパラメータ  
旧パラメータ
- ・ Welpack-S Ver.1.10 以降 (新 Welpack) により作成されたパラメータ  
新パラメータ

1. 新パラメータを作成する。
2. 新パラメータを旧 Welpack で開き、編集するなどして上書き保存する。
3. その旧パラメータを新 Welpack で開く。

このとき、「1. 新パラメータを作成する」において、新 Welpack で追加された BOX 送信オプション内でのメッセージを設定していた場合にのみ、「3. その旧パラメータを新 Welpack で開く」の後に各場面におけるメッセージが重複するなどの現象が起こります。

原則として、新旧 Welpack を混在し、かつ上記のように使用しないよう注意してください。



詳細は別売のソフトウェア「パラメータ設定ソフト Welpack-S」のユーザーズマニュアルをご覧ください。

## 1-4 データを入力する前に

データを入力する前に次の点を確認してください。

- ・子機 ID、親機 ID、チャンネル、サブチャンネルは正しく設定されているか
- ・親機とコンピュータの電源は入っているか
- ・親機とコンピュータは正しく設定、接続されているか
- ・コンピュータのサーバープログラムが起動されているか
- ・サーバープログラムは正しく設定されているか
- ・親機は無線回線をオープンしているか

上記の条件が整っていないと、入力したデータは正しく送信できません。



親機についての詳細は「CTR-700-M1」のユーザーズマニュアルをご覧ください。

## 1-5 メモリバックアップ期間

---

標準アプリケーションは FROM 領域に保存されているので、バッテリーが無くなっても消滅することはありません。一方通常のデータファイルは、バックアップされた SRAM 領域に保存されていますが、長期間充電を行わずに放置しておくとも内容が消滅してしまう場合があるのでご注意ください。

バックアップの期間は、メインバッテリーが満充電の状態、CTR-700-01 では約 2 ヶ月、CTR-700-02 では約 3 ヶ月を目安として下さい。ただし、この期間は温度等の周囲環境で大きく変り、0 以下の場所もしくは 40 以上の場所で保存すると、バックアップ期間は急激に短くなります。

## 1-6 保守に際してのご注意

---

CTR-700 の修理・点検の際には、初期化を行いますのであらかじめご了承ください。初期化を行うと各種設定は出荷時設定となり、FROM、SRAM 領域の全てのファイルが消去されます。標準アプリケーションは再インストールしてご返却いたしますが、お客様で作成されたファイルは再インストールできませんのでご注意ください。お客様で作成されたファイルはバックアップを取っておくことをお勧めします。

## 第2章 データの入力

## 2-1 基本操作

---

データを入力する方法には、大きく分けて次の2種類があります。

### バーコード入力モード

読み取ったバーコードをデータとして入力します。

### マニュアル入力モード

テンキーまたはデータ入力用バーコードを使って、1桁ずつ入力します。

通常はバーコードを読み取ってデータを入力します。バーコードが薄かったり、汚れや傷があって読み取りにくい場合はテンキーまたはデータ入力用バーコードを使ってデータを入力してください。

バーコード入力モードとマニュアル入力モードは、**[F1]**キーを使って切り替えます。

出荷時設定では**(PW)**を押して電源を入れると、ファイルチェックを実行した後に標準アプリケーションが起動します。

標準アプリケーションが起動するとブザーが鳴り、起動メッセージ(タイトル画面)を表示した後、バーコード入力モードになります。

画面の最下行は、各種情報を表示するためのステータス行として使われます。ステータス行には**[F2]**キーを押すごとに、次の情報が順番に表示されます。

データ入力?

▶ REC 000000/000

入力レコード数 / 送信レコード数、電波レベルアイコン

バッテリーメーター

読み取り可能なバーコード

入力可能な最小桁数と最大桁数

無表示(ステータス行は表示されません)

## 2-2 バーコード入力モード

---

標準アプリケーションが起動するとブザーが鳴り、起動メッセージ(タイトル画面)を表示した後、バーコード入力モードになります。

読み取りスイッチを押す

読み取りスイッチを押して、レーザーが点灯するのを確認してください。点灯していればバーコードを読み取ることができます。ⓐキーを押すとレーザーが消灯します。



レーザー光を直視しないでください。

レーザーをバーコードに照射する

レーザーをバーコードに照射して読み取ります。バーコードを読み取ると、ブザーが鳴って読み取り LED が緑色に点灯し、画面に読み取ったデータが表示されます。送信レコード数が 1 以上の場合、すべてのレコードが揃うと無線でコンピュータに送信されます。

データの入力を続ける場合は ~ を繰り返してください。

## 2-3 マニュアル入力モード

---

マニュアル入力には、次の 2 通りの方法があります。

テンキーによる入力

データ入力用バーコードによる入力

バーコード入力モードで[F1]キーを押すとマニュアル入力モードになります。マニュアル入力モード時は、ステータス行に「MANUAL」と表示されます。もう一度[F1]キーを押すと、バーコード入力モードに戻ります。

データ入力?

MANUAL

入力切り替えモードを「自動切り替え」に設定すると、テンキーを押したとき、自動的にマニュアル入力モードになります。



カーソルの移動には[F5] ( ) キー、[F8] ( ) キーを使います。また、[F6] ( ) キーで入力の先頭に、[F7] ( ) キーで入力の末尾に移動できます。カーソルの直前の文字を消すときは[BS] キーを押してください。入力した文字は[↵] ( [ENT] ) キーで確定します。[C] キーを押すと、それまでに入力した文字がすべて取り消されます。また、何も入力していない状態で[C] キーを押すと、バーコード入力モードに戻ります。

テンキーの下に印刷された英字または記号を入力する場合は[SF] キーを押してシフトロック状態 (ステータス行に[S] が表示されます) にします。各キーにはそれぞれ3種類の文字が割り当てられており、キーを押すごとに文字が切り替わります。[F5] ( ) キーまたは[F8] ( ) キーを押してカーソルを移動すると確定します。

[0] キーには3種類の文字のほかにスペースが割り当てられています。また英字の場合、[F6] ( ) キーで大文字に、[F7] ( ) キーで小文字に切り替えることができます。

## 2-4 ステータス行

画面の最下行は、各種情報を表示するためのステータス行として使われます。ステータス行には[F2] キーを押すごとに、次の情報が順番に表示されます。

### 入力レコード数 / 送信レコード数、電波レベルアイコン

設定されている送信レコード数と入力されたレコード数を表示します。また、左端には現在の電波レベルを表わすアイコンを表示します。

データ入力?

↑» REC 000000/000

### バッテリーメーター

電池電圧を表わすバッテリーメーターを表示します。この機能は現在のバッテリー電圧を目安として表示するもので、バッテリーの残り容量を示すものではありません。

データ入力?

L [ ] H

## 読み取り可能なバーコード

バーコード入力モードにおいて、読み取り可能なコード体系を表示します。  
表示される略称とコード体系は次のように対応します。

略称	コード体系
NW7	NW-7 (USS-CODABAR)
C39	CODE39 (USS-39)
JAN	JAN/EAN、UPC-A/E
ITF	Interleaved 2 of 5
IND	Industrial 2 of 5
C93	CODE93
128	CODE128 (USS-128)
MULTI	上記のすべてのコード体系

データ入力?

JAN NW7 ITF

## 入力可能な最小桁数と最大桁数

入力可能なデータの最小桁数と最大桁数を表示します。

データ入力?

MIN 001 ~ 078 MAX

## 無表示

ステータス行は表示されません。

データ入力?

## 2-5 ファンクションキー

ファンクションキー（F1～F8キー）には、それぞれ特別な機能が割り当てられています。標準アプリケーションでは次のように機能が割り当てられています。

キー操作	機能
<b>F1</b>	バーコード入力モードとマニュアル入力モードを切り替えます。
<b>F2</b>	ステータス行の表示を切り替えます。
<b>F3</b>	固定データBOXを更新します。
<b>F4</b>	バックライトを点灯します。
<b>F5</b> ( )	矢印の方向にカーソルを移動します。レコードに複数のBOXがある場合は入力BOXの移動にも使用します。
<b>F6</b> ( )	
<b>F7</b> ( )	
<b>F8</b> ( )	
<b>(SF) + F1</b>	収集モード（データ入力モード）と設定モードを切り替えます。
<b>(SF) + F2</b>	レコードの強制送信またはデータファイルの送信を指示します。
<b>(SF) + F3</b>	パラメータを切り替えます。
<b>(SF) + F5</b>	登録メッセージを送信します（バーコード入力モード時のみ有効）。

**(SF)**キーと組み合わせて使用する場合はシフトロック状態（ステータス行に **S** が表示されます）で各ファンクションキーを押します。

**F1**：バーコード入力モードとマニュアル入力モードを切り替え

データ入力待ち状態で**F1**キーを押すと入力モードを切り替えることができます。



各入力モードの詳細は「2-2 バーコード入力モード」および「2-3 マニュアル入力モード」をご覧ください。

**F2**：ステータス行表示の切り替え

**F2**キーを押すと、ステータス行に表示される情報が切り替わります。ただし、マニュアル入力モードでは「MANUAL」に固定されます。



---

ステータス行の詳細は「2-4 ステータス行」をご覧ください。

---

**[F3] : 固定データ BOX の更新**

固定データ BOX (通常は変更しない固定的なデータを保持する BOX) への入力に切り替わります。レコードに固定データ BOX がない場合は何もありません。レコードの構成をカスタマイズするには別売の「パラメータ設定ソフト Welpack-S」が必要です。

**[F4] : バックライトの点灯**

液晶画面のバックライトを点灯します。バックライトは設定された時間が経過すると自動的に消灯します。設定時間が 0 の場合は再度[F4]キーを押すと消灯します。

**[F5] ~ [F8] : カーソルまたは入力 BOX の移動**

マニュアル入力時のカーソル移動や英字の大文字 / 小文字の切り替えに使用します。また、レコードに複数の BOX がある場合は入力 BOX の移動にも使用します。レコードの構成をカスタマイズするには別売の「パラメータ設定ソフト Welpack-S」が必要です。

**(SF) + [F1] : 収集モード (データ入力モード) と設定モードの切り替え**

データ入力待ち状態で(SF) + [F1]キーを押すと設定モードに切り替わります。



---

設定モードの詳細は「4-1 設定モード」をご覧ください。

---

**(SF) + [F2] : レコードの強制送信またはデータファイルの送信**

データ転送モードが「レコード送信」(リアルタイム処理モード) の場合は蓄積されているレコードを強制的に送信します。「ファイル送信」(バッチ処理モード) の場合はデータを保存しているファイルを送信します。



---

データの送信の詳細は「3-1 データの送信」をご覧ください。

---

**(SF) + [F3] : パラメータの切り替え**

パラメータを切り替えてアプリケーションプログラムを再起動します。



パラメータの詳細は「4-5 パラメータの操作」をご覧ください。

ⓈF + ⓈF5 : 登録メッセージの送信

バーコード入力モードでⓈF + ⓈF5キーを押すと、登録メッセージメニューを表示します。メニューからメッセージを選択すると、コンピュータに指定したメッセージが送信されます。登録メッセージを変更するには別売の「パラメータ設定ソフト Welpack-S」が必要です。



登録メッセージの詳細は「第5章 登録メッセージ」をご覧ください。

## 2-6 データ入力時の注意

データの入力は通常、連続して行われますが、次のように設定することにより、作業の流れを変更して誤入力の防止や効率化を図ることができます。

データ転送モードを「レコード送信」に設定する

設定された数のレコードが揃うまで送信されません。設定数に満たないレコードを強制的に送信するにはⓈF + ⓈF2キーを押してください。なお、レコードの送信中は次のデータを入力することはできません。



データ転送モードの設定方法は「4-3 動作モードの設定」をご覧ください。

レコード確定モードを「確認あり」に設定する

レコードの入力が完了すると1行目には「レコード確定？」が、5行目には「確定」または「取消」を選択するメニューが表示されます。このとき「確定」を選択してⓈENT(ENT)キーを押すとレコードが確定してデータがファイルに保存されます。「取消」を選択した場合やⓈCキーを押した場合は現在のレコードを破棄します。初期状態では「確定」が選択されていますので、ⓈENT(ENT)キーまたはⓈCキーの操作のみで済みます。



レコード確定モードの設定方法は「4-3 動作モードの設定」をご覧ください。

---

### レスポンスモードを「レスポンスあり」に設定する

送信レコード数を1以上に設定した場合、レコードの送信に対してコンピュータからのレスポンス(確認応答)を要求することができます。受信したレスポンスは画面に表示されます。設定された時間内にレスポンスが無い場合はレコードを再送信することができます。



レスポンスモードの設定方法は「4-3 動作モードの設定」をご覧ください。

---



## 第3章 データの送受信



## 3-1 データの送信（子機からコンピュータへ）

---

子機が収集したデータは、それぞれが所属する親機を介してコンピュータに送られます。データ転送モードが「レコード送信」（リアルタイム処理モード）の場合は、設定された数のレコードが揃うごとに自動的に送信されます。「ファイル送信」の場合は、 $(SF) + (F2)$ キーを押したとき、または設定モードの「データファイル」メニューでファイル送信を選んだときに送信されます。

### 3-1-1 送信レコード数

データ転送モードが「レコード送信」（リアルタイム処理モード）の場合は、1回の送信処理で送信するレコード数を設定できます。設定された数のレコードが揃うまで送信されません。設定数に満たないレコードを強制的に送信するには $(SF) + (F2)$ キーを押してください。なお、レコードの送信中は次のデータを入力することはできません。

データ入力?  
123456789

↑ 記録送信中...



データ転送モードの設定方法は「4-3 動作モードの設定」をご覧ください。

---

### 3-1-2 レスポンスモード

データ転送モードが「レコード送信」（リアルタイム処理モード）の場合、1回の送信処理に対してコンピュータからのレスポンス（確認応答）を要求することができます。受信したレスポンスは画面に表示されます。設定された時間内にレスポンスがない場合はレコードを再送信することができます。

データ入力?  
123456789

↑ 応答待ち...



レスポンスモードの設定方法は「4-3 動作モードの設定」をご覧ください。

---

### 3-1-3 未送信レコード

データ転送モードが「レコード送信」(リアルタイム処理モード)の場合、アプリケーションを起動したとき、または(PW)を押して電源を切るときに未送信のレコードがあると強制的に送信するかどうかを問い合わせます。

未送信のデータが残っています。  
送信しますか？

1: はい 2: いいえ

送信しなかったときはレコードを保存し、次の送信処理でまとめて送信します。

### 3-1-4 送信エラー

データ転送モードが「レコード送信」(リアルタイム処理モード)の場合、送信中に次のエラーメッセージが表示されることがあります。

#### 通信圏外

子機がサービスエリア(データ通信が可能な範囲)の外にいる場合に表示されます。このとき圏外LEDも点灯しています。またその他の原因として、親機が無線回線をオープンしていなかったり、親機ID、チャンネルおよびサブチャンネルの設定を誤っている可能性があります。

通信圏外です。  
サービスエリア内に移動してください。

1: 再送 2: 破棄



親機についての詳細は「CTR-700-M1」のユーザーズマニュアルをご覧ください。

#### 送信の中止




送信中に(C)キーを押したときや、規定時間内に送信できなかったときは送信を中止します。無線回線の通信量が多くて混み合っていたり、1回の送信処理で送るデータが大きいつきは送信に時間がかかります。無線回線の通信量を減らすか、あるいは親機を増設してください。

送信を中止しました。  
準備ができたなら再送してください。

1: 再送 2: 破棄

いずれのメッセージを表示した場合でも、「再送」を選択するとレコードをもう一度コンピュータに送ります。「破棄」を選択するとレコードを破棄してデータ入力を再開します。

## 3-2 データの受信（コンピュータから子機へ）

コンピュータから子機に送られるデータには、レスポンスメッセージと一般メッセージの2種類があります。レスポンスメッセージは、子機からコンピュータへ送られたレコードデータの確認応答として、コンピュータから子機に返送されます。一方、一般メッセージは、子機が送信するレコードデータとは関係なく、コンピュータから子機に非同期的に送られるメッセージです。いずれも子機がデータを受信すると、画面に表示され、 (  ) キーか  キーが押されると元の画面に戻ります。



子機の電源が OFF の場合はデータを受信できません。

### 3-2-1 レスポンスモード

データ転送モードが「レコード送信」(リアルタイム処理モード)の場合、1回の送信処理に対してコンピュータからのレスポンス(確認応答)を要求することができます。受信したレスポンスは画面に表示されます。設定された時間内にレスポンスがない場合はレコードを再送信することができます。

データ入力?  
123456789

⌘ 応答待ち...



レスポンスモードの設定方法は「4-3 動作モードの設定」をご覧ください。

### 3-2-2 受信エラー

データ転送モードが「レコード送信」(リアルタイム処理モード)の場合、応答を待っている間に次のエラーメッセージが表示されることがあります。

#### タイムアウト

設定された時間内に応答が返ってこなかった場合に表示されます。「再送」を選択するとレコードをもう一度コンピュータに送ります。「破棄」を選択するとレコードを破棄してデータ入力を再開します。

タイムアウトです。  
サーバーからの応答がありません。

1: **再送** 2: 破棄

### 受信の中止

応答を待っている間に **C** キーを押したときは受信を中止します。無線回線の通信量が多くて混み合っているときは時間がかかります。無線回線の通信量を減らすか、あるいは親機を増設してください。

受信を中止しました  
準備ができたなら  
再送してください。

1: **再送** 2: 破棄



## 第4章 環境設定

## 4-1 設定モード

標準アプリケーションの動作環境を設定する場合は「設定モード」に切り替えます。データ入力モード（収集モード）で **(SF)** + **(F1)** キーを押すと設定モードに切り替わります。

設定メニューは次のような階層的な構成になっています。

\*\*\* 設定メニュー \*\*\*  
1: 動作電圧  
2: データファイル  
3: パラメータ  
4: システム

### 動作モード

データ転送モード	転送単位をレコードまたはファイルに切り替えます。
トリガモード	読み取りスイッチの動作を切り替えます。
パワーセーブモード	消費電流を抑えるための設定です。
入力切り替えモード	テンキーを押したとき、自動的にマニュアル入力できます。
レコード確定モード	レコードを確定する前に確認できます。
レスポンスモード	データを送信した後、コンピュータからの応答を待ちます。
自動データ削除モード	データを送信した後、ファイルを自動的に削除します。
二度読み禁止モード	同じデータを連続して読み取らないようにできます。
プリンタ出力モード	プリンタ（別売）でジャーナルを出力することができます。

### データファイル

ファイル情報	データファイルに関する情報を表示します。
ファイル送信	データファイルをコンピュータにアップロードします。
ファイル受信	データファイルをコンピュータからダウンロードします。
ファイル削除	データファイルを削除します。

## パラメータ

起動パラメータ	起動時に選択するパラメータを設定します。
パラメータ切替	パラメータを切り替えて再起動します。
パラメータ情報	パラメータの設定内容を表示します。
パラメータ受信	パラメータファイルをコンピュータからダウンロードします。
パラメータ削除	パラメータファイルを削除します。

## システム

バージョン情報	各ソフトウェアモジュールのバージョン情報を表示します。
システムメニュー	システムメニューを呼び出します。
オートパワーオフ時間	一定時間操作が行われない場合に、自動的に電源を切るまでの時間を設定します。
バックライト点灯時間	バックライトを点灯する時間を設定できます。

## 4-2 設定メニューの操作方法

設定メニューでは次のキーを使用します。

キー操作	機能
Ⓒ	1 つ前のメニューに戻ります。トップメニューでは設定モードを終了します。
① ~ ⑨	該当する番号のメニュー項目を選択します。
⬅ ( ENT )	メニュー項目の選択を確定します。
F4	バックライトを点灯します。
F6 ( )	メニュー項目の選択を矢印の方向に移動します。
F7 ( )	



### メニュー項目を選択する

選択されたメニュー項目はハイライト（反転）表示されます。メニュー項目の選択を変更する場合は、**[F6]**（**↑**）キーまたは**[F7]**（**↓**）キーを押して順番に移動するか、あるいはそれぞれの項目番号に該当するテンキー（1～9）を押して直接指定します。

#### 動作モード

- 1: データ転送
- 2: トリガ
- 3: パワーセーブ
- 4: 入力切り替え

すべてのメニュー項目が1画面に収まらない場合は、画面の左側に**↑**（画面の上）にメニュー項目が隠れている場合）または**↓**（画面の下）にメニュー項目が隠れている場合）が表示されます。また、隠れているメニュー項目を選択すると、自動的に画面がスクロールします。

### 選択を確定する

メニューの選択を確定するときは**[ENT]**（**ENT**）キーを押します。メニューの選択を確定すると、現在ハイライト（反転）表示されているメニュー項目に該当する機能を実行します。選択したメニュー項目がさらに次のメニューを表示する場合もあります。

### 前のメニューに戻る

前のメニューに戻るときは**[C]**キーを押します。戻り先のメニューでは、以前に選択されていたメニュー項目がハイライト（反転）表示されます。トップメニュー（最初に表示されるメニュー）で**[C]**キーを押すと、設定モードを終了してデータ入力モード（収集モード）に戻ります。

## 4-3 動作モードの設定

「動作モード」メニューでは、標準アプリケーションの基本的な動作や処理手順を設定します。動作モードの設定には次の項目があります。

#### 動作モード

- 1: データ転送
- 2: トリガ
- 3: パワーセーブ
- 4: 入力切り替え

- ・ データ転送モード
- ・ トリガモード
- ・ パワーセーブモード
- ・ 入力切り替えモード
- ・ レコード確定モード

- ・レスポンスモード
- ・自動データ削除モード
- ・二度読み禁止モード
- ・プリンタ出力モード

#### 4-3-1 データ転送モード

入力したデータの転送単位をレコードまたはファイルに切り替えます。

##### レコード送信

データを入力するごとにレコード単位でコンピュータに送ります(リアルタイム処理モード)。2つ以上のレコードを一括して送ることもできます。

##### ファイル送信

入力したデータはすべてファイルに保存されます(バッチ処理モード)。ファイルをコンピュータに送るときは(SF) + (F2)キーを押すか、「データファイル」メニューのファイル送信機能を使用します。

データ転送モードを「レコード送信」に設定したときは、引き続き「送信レコード数」を設定します。設定できる値は1~100件の範囲です。

データ転送モード

1:レコード送信

2:ファイル送信

送信レコード数

\_\_\_ 1件



データ転送モードを設定するときに未送信データが残っていると、強制的に送信するかどうかを問い合せます。このときデータを送信しなかった場合はすべて破棄されます。

### 4-3-2 トリガモード

読み取りスイッチの動作を切り替えます。

#### ノーマルトリガ

読み取りスイッチを押すとレーザーが点灯し、常に読み取りができます。

#### デコードトリガ

最初に読み取りスイッチを押すとレーザーが点滅します。もう一度押すと点灯して読み取りを開始します。読み取りに成功するとレーザーは消灯します。

#### リリーストリガ

読み取りスイッチを押すとレーザーが点滅し、読み取りスイッチを離すと点灯して読み取りを開始します。

トリガモードに引き続いて「レーザー照射時間」を設定します。設定できる値の範囲は0～65535秒の範囲です。指定した時間内にバーコードが読み取られない場合は、スキャナへの電源の供給を停止します。0秒の場合は停止しません。

トリガモード

- 1: ノーマルトリガ
- 2: デコードトリガ
- 3: リリーストリガ

レーザー照射時間

20秒

### 4-3-3 パワーセーブモード

消費電流を抑えるための設定です。

#### セーブしない

消費電流を抑えるための処理は一切しません。

#### クイックセーブ

バーコードの読み取りに成功するとレーザーを自動的に消灯します。ただしスキャナへの電源の供給は続けます。次に読み取りを開始する際の立ち上がり時間を短くできます。

パワーセーブモード

- 1: セーブしない
- 2: クイックセーブ
- 3: フルセーブ

## フルセーブ

バーコードの読み取りに成功するとスキャナへの電源の供給を停止します。次に読み取りを開始する際の立ち上がり時間はクイックセーブに比べて長くなります。

## 4-3-4 入力切り替えモード

バーコード入力モードからマニュアル入力モードへの切り替え方法を設定します。

## F1 キー

**F1** キーを押したときだけマニュアル入力モードに切り替わります。テンキーを押しても反応しません。

入力切り替えモード  
1: **F1** キー  
2: 自動切り替え

## 自動切り替え

テンキーを押すと自動的にマニュアル入力モードに切り替わります。**F1** キーによる切り替えもできます。

## 4-3-5 レコード確定モード

レコードを確定する前に確認するかどうかを設定します。

## 確認あり

レコードを確定する前に確認のためのメッセージを表示します。このとき「取消」を選択するか、あるいは **C** キーを押すとレコードは破棄されます。

レコード確定モード  
1: 確認あり  
2: 確認なし

## 確認なし

確認のためのメッセージは表示しません。

レコード確定?  
123456789

1: **確定** 2: 取消

### 4-3-6 レスポンスモード

リアルタイム処理モードにおいて、レコードを送信した後、コンピュータからの応答を待つかどうかを設定します。

#### レスポンスあり

レコードを送信した後、コンピュータからの応答を待ちます。受信したレスポンスデータは画面に表示されます。

レスポンスモード  
1: レスポンスあり  
2: レスポンスなし

#### レスポンスなし

レコードを送信した後、コンピュータからの応答を待たずにデータ入力を再開します。

レスポンス待ち時間

30秒

レスポンスモードを「レスポンスあり」に設定したときは、引き続き「レスポンス待ち時間」を設定します。設定できる値は0～65535秒の範囲です。0秒の場合はレスポンスを受信するまで待ち続けます。

### 4-3-7 自動データ削除モード

バッチ処理モードにおいて、ファイルを送信した後、自動的にデータを削除するかどうかを設定します。

#### 削除する

ファイルを送信した後、自動的にファイルを削除します。

自動データ削除モード  
1: 削除する  
2: 削除しない

#### 削除しない

ファイルを送信した後もデータを保持します。ファイルを削除するときは、「データファイル」メニューのファイル削除機能を使用します。

### 4-3-8 二度読み禁止モード

同じデータを連続して読み取らないようにするかどうかを設定します。

#### 二度読み許可

連続した同じデータの読み取りを許可します。

#### 二度読み禁止

連続した同じデータの読み取りを禁止します。他のバーコードを読み取るか、あるいはマニュアル入力しない限り、同じデータを続けて入力することはできません。

二度読み禁止モード  
1:二度読み許可  
2:二度読み禁止

### 4-3-9 プリンタ出力モード

プリンタ（別売）でジャーナルを出力するかどうかを設定します。この機能は、CTR-700-01 を HOP-C011 でプリンタに接続した時のみ有効な機能です。

#### 出力する

レコードが確定したら（リアルタイム処理モードでは送信終了後）ジャーナルを出力します。

#### 出力しない

ジャーナルは出力しません。

プリンタ出力モード  
1:出力する  
2:出力しない

プリンタ出力モードを「出力する」に設定した場合、出力するときにプリンタが接続されていないとエラーメッセージが表示されます。このとき「取消」を選択するとジャーナルは出力されません。

プリンタが接続されていません。  
準備ができたら出力を開始してください  
1:開始 2:取消

出荷時における動作モードの設定は次の通りです。

データ転送モード	レコード送信（送信レコード数：1）
トリガモード	ノーマルトリガ（レーザー点灯時間：20 秒）
パワーセーブモード	クイックセーブ
入力切り替えモード	F1 キー
レコード確定モード	確認なし
レスポンスモード	レスポンスなし
自動データ削除モード	削除しない
二度読み禁止モード	二度読み許可
プリンタ出力モード	出力しない

## 4-4 データファイルの操作

「データファイル」メニューでは、データファイル（入力データを保存しているファイル）の操作をサポートします。このメニューには次の項目があります。

- ・ファイル情報
- ・ファイル送信
- ・ファイル受信
- ・ファイル削除

データファイル  
1: **ファイル情報**  
2: ファイル送信  
3: ファイル受信  
4: ファイル削除

### 4-4-1 ファイル情報

データファイルに関する情報を表示します。

- ・ファイル名とサイズ：最初の行にはデータファイルのファイル名と KB 単位の大きさが表示されます。「標準パラメータ」の場合は“S:STD700S.DAT”です。
- ・ID：ファイルの先頭に付加される ID レコードの「あり」「なし」を表わします。
- ・EOF：有効なデータの末尾に付加される EOF コードの「あり」「なし」を表わします。
- ・デリミタ：各 BOX の区切り文字（なし / タブ / スペース / カンマ）を表わします。
- ・クォート：文字列型 BOX のクォーテーション（なし / シングル / ダブル）を表わします。
- ・改行：各レコードの改行コード（なし / CR / LF / CR+LF）を表わします。

S:STD700S.DAT OKB  
IDあり/EOFあり  
デリミタ:なし  
クォート:なし  
改行:CR+LF

### 4-4-2 ファイル送信

データファイルをコンピュータに送信（アップロード）します。保存されたデータがない場合は送信しません。ファイルの送信はシステムメニューの機能を使用しています。

< 送信方法の選択 >

1: **無線通信**  
2: 光通信

< ファイルの送信 >

S:STD700S.DAT  
56320 / 350486



システムメニューの詳細は CTR-700 の「ハードウェア / システムメニュー」ユーザーズマニュアルをご覧ください。

送信が完了すると、自動データ削除モードが設定されている場合はデータファイルを自動的に削除します。

#### 4-4-3 ファイル受信

データファイルをコンピュータから受信（ダウンロード）します。ファイルの受信はシステムメニューの機能を使用しています。

ファイル受信  
既存のデータは  
失われます。

1: **実行** 2: 取消



システムメニューの詳細は CTR-700 の「ハードウェア / システムメニュー」ユーザーズマニュアルをご覧ください。

< ファイル受信方法 >

1: **無線通信**  
2: 光通信

ファイルを受信すると現在保存されているデータはすべて失われ、新しいデータが上書きされます。

< ファイルの受信 >

STD700S.DAT

56320 / 350486

#### 4-4-4 ファイル削除

データファイルを削除します。ファイルを削除すると、現在保存されているデータはすべて失われます。

ファイル削除  
既存のデータは  
失われます。

1: **実行** 2: 取消



## 4-5 パラメータの操作

「パラメータ」メニューでは、パラメータファイル（設定情報を保持しているファイル）の操作をサポートします。このメニューには次の項目があります。

- ・ 起動パラメータ
- ・ パラメータ切替
- ・ パラメータ情報
- ・ パラメータ受信
- ・ パラメータ削除

パラメータ  
1: 起動パラメータ  
2: パラメータ切替  
3: パラメータ情報  
4: パラメータ受信



パラメータの詳細は別売のソフトウェア「パラメータ設定ソフトウェア Welpack-S」のユーザーズマニュアルをご覧ください。

### 4-5-1 起動パラメータ

起動時に選択するパラメータを設定します。

#### 前回の設定

前回電源を切ったときに使用していたパラメータを選択して起動します。

#### 固定パラメータ

指定したパラメータを選択して起動します。引き続きパラメータリストで使用するパラメータを指定してください。

#### リストから選択

起動するごとにパラメータリストを表示してパラメータを選択します。

起動パラメータ  
1: 前回の設定  
2: 固定パラメータ  
3: リストから選択

固定パラメータ  
1: 標準パラメータ  
2: USERパラメータ

## 4-5-2 パラメータ切替

パラメータを切り替えて再起動します。

パラメータ切替  
 1:標準パラメータ  
 2:USERパラメータ

## 4-5-3 パラメータ情報

パラメータファイルに関する情報と各 BOX の設定内容を表示します。← (ENV) キーを押すごとに次の画面に切り替わります (次の画面がある場合は▶が右下に表示されます)。また(C)キーを押すと表示を中止してメニューに戻ります。

標準パラメータ  
 Ver. 1.00  
 S:STD700S.DAT  
 BOX数:1 ▶

パラメータファイルに関する情報は次の通りです。

パラメータタイトル

最初の行には現在使用しているパラメータのタイトルが表示されます。

バージョン情報

パラメータの書式のバージョンです。

データファイル名

入力データを保存するファイルを表わします。「標準パラメータ」の場合は“S:STD700S.DAT”です。

BOX 数

レコードの BOX 数を表わします。

標準パラメータ  
 BOX1  
 タイプ:標準入力  
 データ:文字列  
 サイズ:0

各 BOX の設定内容は次の通りです。

タイプ

BOX タイプ (UNKNOWN / 標準入力 / 固定データ / 自動更新 / 表示データ / カウント / 日付 / 時刻) を表わします。

データ

データタイプ (数値 / 文字列) を表わします。

サイズ

BOX サイズを表わします。0 の場合は可変長の BOX です。

#### 4-5-4 パラメータ受信

パラメータファイルをコンピュータから受信（ダウンロード）します。ファイルの受信はシステムメニューの機能を使用しています。



システムメニューの詳細は CTR-700 の「ハードウェア/システムメニュー」ユーザズマニュアルをご覧ください。

< ファイル受信方法 >

1:無線通信  
2:光通信

<受信ファイルの選択>

STD700S.PRM  
USR.PRM

受信したパラメータファイルが現在使われている場合はアプリケーションが再起動されます。

< ファイルの受信 >

STD700S.PRM

0 / 256

#### 4-5-5 パラメータ削除

パラメータリストから削除するパラメータを選択します。削除するパラメータが現在使われている場合は確認のメッセージが表示されます。このとき「はい」を選んで削除するとアプリケーションが再起動されます。

パラメータ削除

1:標準パラメータ

指定したパラメータは現在使われています。削除しますか？

1:はい 2:いいえ

## 4-6 システムの設定

「システム」メニューでは、システム全体に関する情報の表示や設定をサポートします。このメニューには次の項目があります。

- ・バージョン情報
- ・システムメニュー
- ・オートパワーオフ
- ・バックライト

システム

- 1:バージョン情報
- 2:システムメニュー
- 3:オートパワーオフ
- 4:バックライト

### 4-6-1 バージョン情報

各ソフトウェアモジュール（標準アプリケーション / SDK / OS / IPL）のバージョン情報を表示します。

バージョン情報  
 APL:Ver.1.00  
 SDK:Ver.1.00  
 OS:Ver.1.00  
 IPL:Ver.1.00

### 4-6-2 システムメニュー

システムメニューを呼び出します。



システムメニューの詳細は CTR-700 の「ハードウェア / システムメニュー」ユーザーズマニュアルをご覧ください。

### 4-6-3 オートパワーオフ時間

設定した時間の中に操作がないと自動的に電源を切ります。設定できる範囲は 0 秒または 10 ~ 3600 秒です。

0 秒に設定した場合は、オートパワーオフ機能が無効になります。

1 ~ 9 秒に設定した場合は、10 秒に設定されます。

オートパワーオフ時間

600秒

### 4-6-4 バックライト点灯時間

バックライトを点灯する時間を設定します。[F4]キーを押すと設定した時間が経過するまでバックライトが点灯します。設定できる範囲は 0 ~ 65535 秒です。

0 秒に設定した場合は、再度[F4]キーを押すまで点灯します。

バックライト点灯時間

5秒



## 第5章 登録メッセージ

## 5-1 登録メッセージの概要

---

登録メッセージは、コンピュータに対して任意の時点で送ることのできるメッセージです。メッセージは最大4件まで登録できます。標準パラメータでは「作業開始」と「作業終了」の2種類があらかじめ登録されています。



登録メッセージを変更するには別売の「パラメータ設定ソフトウェアパック-S」が必要です。

## 5-2 登録メッセージの送信

---

バーコード入力モードで(SF) + [F5]キーを押すと登録メッセージメニューを表示します。メニューからメッセージを選択するとコンピュータに指定したメッセージが送信されます。

登録メッセージ送信

1: 作業開始  
2: 作業終了



マニュアル入力モードでは登録メッセージを送信できません。

## 第6章 こんなときは



## 6-1 警告が表示されたとき

標準アプリケーションの実行中、状況によって次のような警告を表示することがあります。

### 6-1-1 バッテリー電圧の低下

長時間使用しているとバッテリーが消耗して電圧が低下します。ある一定の電圧まで低下するとアプリケーションの実行を継続できなくなり、警告が表示されます。

警告を5秒間表示した後、ステータス行に「充電してください。」と表示されます。ステータス行は[F2]キーを押すと通常が表示に戻りますが、5秒後に再度警告が表示されます。

最初に警告が表示されてから5分が経過すると、強制的に電源が切れます。このとき未確定のレコードは破棄されますが、ファイルに保存されたデータは保持され、データ転送モードが「レコード送信」(リアルタイム処理モード)の場合は次に起動したときに送信されます。

バッテリー電圧低下

充電してください。  
5分後に電源をOFFに  
します。

5秒後

データ入力?

**充電してください。**

5分後

バッテリー電圧低下

電源OFF

### 6-1-2 未送信レコード

データ転送モードが「レコード送信」(リアルタイム処理モード)の場合、アプリケーションを起動したとき、または(PW)を押して電源を切るときに未送信のレコードがあると強制的に送信するかどうかを問い合わせます。

送信しなかったときはレコードを保存し、次の送信処理でまとめて送信します。

未送信のデータが  
残っています。  
送信しますか?

1:はい 2:いいえ

### 6-1-3 メモリの不足

プログラムに必要なメモリ領域を確保できないときに発生します。大きなデータを大量に処理する場合は、必要なメモリも大きくなります。メモリが不足するようなときは、パラメータの設定を調整してメモリの消費を抑えてください。

データ入力?  
実行時エラー 12:  
メモリが足りません。

### 6-1-4 ファイル領域の不足

入力したデータを保存するごとにデータファイルが大きくなります。また、ドライブに多くのファイルがあると空き容量も少なくなります。空き領域の不足が原因でデータファイルへの書き込みに失敗するとシステムエラーが発生します。不要なファイルを削除して空き領域を確保してください。

データ入力?  
実行時エラー 28:  
ドライブの空き容量が  
不足しています。

### 6-1-5 無効なファイル名

パラメータで指定されたデータファイル名に誤りがある場合はシステムエラーが発生します。CTR-700 のファイルシステムでは、8.3 形式のファイル名（最大 8 文字までのベース名と最大 3 文字までの拡張子で構成）を使用しています。


データ入力?  
実行時エラー 78:  
指定したファイル名に  
誤りがあります。


---


**お願い** その他のシステムエラーが発生した際は弊社までご連絡ください。


---

## 6-2 正常に動作しないとき

障害の内容	電源が入らない
原因と対処	<p>1) 急速充電器が接続されている (CTR-700-01 の場合のみ) 急速充電器が接続されているとプログラムは実行できません。急速充電器を外してください。</p> <p>2) バッテリーが消耗している バッテリーが消耗して電圧が低下しているとプログラムは実行できません。充電するか、あるいは別のバッテリーカートリッジに交換してください。</p> <p>3) バッテリーカートリッジが正しく装着されていない 正しく装着されていないと電源を安定して供給できません。正しく装着し直してください。</p> <p> 参照</p> <p>充電方法とバッテリーカートリッジの取り扱いについては CTR-700 の「ハードウェア / システムメニュー」ユーザズマニュアルをご覧ください。</p>

障害の内容	バーコードの読み取りができない
原因と対処	<p>正しく作成されたバーコードで、汚れや傷がないにもかかわらず読み取ることができない場合は次の原因が考えられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 読み取りが禁止されたバーコードである パラメータで読み取りが禁止されているバーコードはすべて無視します。</li> <li>2) 二度読みが禁止されている 二度読みを禁止するように設定されていると、同じデータを連続して入力することはできません。ブザーが鳴って入力が拒否されます。</li> <li>3) 入力条件を満たしていない 有効桁数でない場合や、データパターンが一致していない場合は、ブザーが鳴って入力が拒否されます。</li> </ol> <p> 参照</p> <p>パラメータの設定の詳細は別売のソフトウェア「パラメータ設定ソフト Welpack-S」のユーザーズマニュアルをご覧ください。</p>

障害の内容	無線通信でデータを送信できない
原因と対処	<p>1) 親機 ID、チャンネルおよびサブチャンネルが正しく設定されていない これらが正しく設定されていないと親機との通信を確立できません。正しく設定し直してください。</p> <p>2) 無線回線がオープンされていない 親機はクローズ状態の時、コンピュータが OPN コマンドを発行するまで無線回線をオープンしません。この時、子機の圏外 LED は点灯しています。</p> <p>3) 通信圏外にいる 子機がサービスエリア(データ通信が可能な範囲)の外にいる場合は親機との通信を確立できません。この時、子機の圏外 LED は点灯しています。</p> <p>4) 電波の状態が不安定である 電波が伝わりにくい環境の場合や、親機または子機の近くにノイズの発生源(パソコンを始めとした電子機器など)がある場合は、サービスエリア内にいたとしても正常に通信できないことがあります。子機を親機に近づけるか、親機または子機をノイズの発生源から 1m 以上離してください。</p> <p> 親機についての詳細は「CTR-700-M1」のユーザーズマニュアルをご覧ください。</p>

障害の内容	光通信（IrDA 通信）でデータを送信できない
原因と対処	<p>1) 通信条件が正しく設定されていない 通信速度やパリティなどの設定がコンピュータと一致していない場合は正しくデータを送ることができません。また、データ長は必ず 8 ビットに設定してください。</p> <p>2) 光通信インターフェース（IrDA 通信インターフェース）が汚れている インターフェースの窓はアクリル板で保護されていますが、このアクリル板が汚れていると通信できません。汚れを拭き取ってきれいにしてください。</p> <p>3) 専用ケーブルまたは光アダプタケーブルが正しく接続されていない 専用ケーブルまたは光アダプタケーブルはコンピュータのシリアルコネクタにつないでください。</p> <p>4) 光通信ユニットの電源が入っていない 光通信ユニットの電源が入っていないと通信できません。電源スイッチや電源ケーブルの接続を確かめてください。</p> <p> 参照</p> <p>光通信（IrDA 通信）の設定についての詳細は CTR-700 の「ハードウェア / システムメニュー」ユーザーズマニュアルをご覧ください。</p>



**付録1**



# データ入力用バーコード <アルファベット>

---



A



F



B



G



C



H



D



I



E



J

## データ入力用バーコード <アルファベット>

---



K



P



L



Q



M



R



N



S



O



T

## データ入力用バーコード <アルファベット>

---



U



Z



V



a



W



b



X



c



Y



d

## データ入力用バーコード <記号>

---



+



\$



スペース



.



%



/



#



:



\*





**付録2**

## 付録 2-1 エスケープシーケンス

エスケープシーケンスとは画面に文字として表示されずに、画面の状態を変更する特殊な文字のことをいいます。

以下の表中ではエスケープキャラクタを ESC と表しています。これは“ESC”という文字列ではなく、“`¥x1b`”という値を示しています。ご注意ください。また、パラメータ pn、pl、pc、ps は十進数を、pa はアルファベット 1 文字を示しています。

エスケープシーケンス	動作
¥a	ブザーを鳴らします。これは_Buz_Beep(2731,100,0,0);と等価です。 HAP-SDK-11 は'¥a'を'¥x07'に変換します。
¥b	カーソルを一つ前の桁位置に移動し、その文字を消去します。もしこの操作によりカーソルが画面外に出てしまう場合は、一行上の最終桁に移動します。もしこの操作によりカーソルが画面外に出てしまう場合は、何も動作しません。 ¥b によって漢字などの 2 バイト文字を消去する場合は、必ず両バイトを同時に消去してください。第一バイト、もしくは第二バイトのみを消去すると、残った部分が化けることがあります。 HAP-SDK-11 は'¥b'を'¥x08'に変換します。
¥f	SLCD は¥f を無視します。 HAP-SDK-11 は'¥f'を'¥x0c'に変換します。
¥n	カーソルを次の行の先頭に移動します。もし、この操作によりカーソルが画面外に出てしまう場合は、可能ならば画面をスクロールします。このときスクロールできなければ、¥r と同じように動作します。 HAP-SDK-11 は'¥n'を'¥x0a'に変換します。
¥r	カーソルを同じ行の行頭に移動します。 HAP-SDK-11 は'¥r'を'¥x0d'に変換します。
¥t	カーソル位置を現在の桁数より大きい 4 の倍数となる桁位置に移動します。移動の結果、カーソルが画面外に出てしまう場合は、¥n と同じように扱われます。 HAP-SDK-11 は'¥t'を'¥x09'に変換します。
¥v	カーソルを次の行に移動します。桁位置は変更されません。もしこの操作によりカーソルが画面外に出てしまう場合は、可能ならば画面をスクロールします。このときスクロールできなければ、何も動作しません。 HAP-SDK-11 は'¥v'を'¥x0b'に変換します。

エスケープシーケンス	動作
ESC[pl;pcH	カーソルを移動します。pl は行位置、pc は桁位置を示します。画面外を指定した場合は何も動作しません。
ESC[pnA	pn で指定した行数分だけカーソルを上に移動します。桁位置は変更されません。移動の結果カーソルが画面外に出ってしまう場合は、カーソルの最終的な移動先は最上行の同じ桁位置となります。
ESC[pnB	pn で指定した行数分だけカーソルを下に移動します。桁位置は変更されません。移動の結果カーソルが画面外に出ってしまう場合は、カーソルの最終的な移動先は最下行の同じ桁位置となります。
ESC[pnC	pn で指定した桁数分だけカーソルを右に移動します。行位置は変更されません。移動の結果カーソルが画面外に出ってしまう場合は、カーソルの最終的な移動先は同じ行位置の最右桁となります。
ESC[pnD	pn で指定した桁数分だけカーソルを左に移動します。行位置は変更されません。移動の結果カーソルが画面外に出ってしまう場合は、カーソルの最終的な移動先は同じ行位置の最左桁となります。
ESC[6n	\$KBD のバッファ内に、ESC[pl;pcR の形式で現在のカーソル位置を報告します。この結果はデフォルトの設定を変更していなければ、標準入力から読み出されることとなります。
ESC[s	現在のカーソル位置と表示属性を保存します。ここで保存した情報は次に ESC[s を発行するまで有効で、ESC[u の出力で復帰することができます。
ESC[u	ESC[s で保存したカーソル位置と表示属性を復帰します。ESC[s が一度も実行されていない場合は、カーソルはホーム位置に移動し、デフォルトの表示属性が設定されます。
ESC[0J	カーソル位置から最下行の右端までの文字を消去します。
ESC[1J	最上行の左端からカーソル位置までの文字を消去します。
ESC[2J	画面を消去し、カーソルをホームポジションに戻します。表示属性もデフォルトのものが選択されます。
ESC[0K	カーソル位置から行の右端までの文字を消去します。
ESC[1K	行の左端からカーソル位置までの文字を消去します。
ESC[2K	カーソルが位置する行の文字をすべて消去します。
ESC[5S	画面を一行スクロールアップします。カーソルは移動しません。
ESC[5T	画面を一行スクロールダウンします。カーソルは移動しません。



エスケープシーケンス	動作		
ESC[>pa	エスケープシーケンスに割り当てられていて、そのままでは出力不能なフォントを出力します。CTR-700 では 1 バイトで表されるエスケープシーケンスにも、表示可能な文字コードが割り当てられています。それらを表示する場合はこのエスケープシーケンスを使わなければいけません。		
	表示文字	割り当てられているコード	pa
		0x07	a
		0x09	t
	X	0x0b	v
	↵	0x1b	e
ESC[>0n	バックライトを点灯します。これは_LCD_Backlight(LC.ON); と等価です。		
ESC[>0f	バックライトを消灯します。これは_LCD_Backlight(LC.OFF); と等価です。		
ESC[>1n	画面を表示します。ESC[>1f の効果を打ち消します。		
ESC[>1f	画面表示を停止します。画面の内容は見えなくなっているだけで、画面に対する書き込みは、常に有効です。		
ESC[>2n	画面を通常表示にします。ESC[>2r の効果を打ち消します。		
ESC[>2r	画面全体を反転表示にします。		
ESC[>3n	画面を通常表示にします。ESC[>3b の効果を打ち消します。		
ESC[>3b	画面を点滅させます。		
ESC[>4r	矩形カーソルを使用します。		
ESC[>4b	ブリンクカーソルを使用します。(デフォルト)		
ESC[>4u	アンダーバーカーソルを使用します。		
ESC[>5l	カーソルを画面に表示します。		
ESC[>5h	カーソルの画面表示を停止します。カーソルが表示されなくても、文字出力は通常通り行われます。		
ESC[>6n	自動スクロールを有効にします。		
ESC[>6f	自動スクロールを無効にします。		
ESC[>7n	自動改行を有効にします。		
ESC[>7f	自動改行を無効にします。		
ESC[ps;...;psm	表示文字の属性を指定します。		
	ps	内容	
	0	すべての属性を無効にする。(デフォルトの表示属性)	
	4	下線	
	7	反転	

## 付録 2-2 拡張エスケープシーケンス

<p>ESC[&lt;pc;p1; p2;p3L</p>	<p>読み取り LED を pc で指定された色で p1m 秒間の点灯と p2m 秒間の消灯を p3 回繰り返します。p1~p3 は 0 を設定するとになります。pc には次のいずれかを指定します。</p> <table border="1" data-bbox="311 400 538 523"> <tr><td>0 : 消灯</td></tr> <tr><td>1 : 赤色</td></tr> <tr><td>2 : 緑色</td></tr> <tr><td>3 : 黄色</td></tr> </table>	0 : 消灯	1 : 赤色	2 : 緑色	3 : 黄色					
0 : 消灯										
1 : 赤色										
2 : 緑色										
3 : 黄色										
<p>ESC[&lt;pf;p1; p2;p3B</p>	<p>ブザーを pf で指定された周波数で p1m 秒間の鳴動と p2m 秒間の停止を p3 回繰り返します。p1~p3 は 0 を設定すると になります。</p>									
<p>ESC[&lt;ptW</p>	<p>表示を pt m 秒間停止します。pt が 0 の場合は です。⏏ ( ENT ) キーあるいはⓈキーが押されると直ちに表示を再開します。</p>									
<p>ESC[&lt;p1;p2 ;p3S <small>標準アプリケーション Ver.1.20以降が必要です。</small></p>	<p>p3 で指定された BOX の値を p2 桁目 (先頭は 0 桁) から、最大 p1 桁表示します。p1 が 0 の場合はすべての桁を表示し、p3 が 0 の場合はカレント BOX を表示します。</p>									
<p>ESC[&lt;p1;p2 D</p>	<p>ステータス行 (最下行) に二者択一のダイアログメッセージを表示します。p1 ではダイアログタイプを、p2 では最初にハイライト表示 (反転表示) される項目を指定します。項目のどちらかがハイライト表示されているときに⏏ ( ENT ) キーを押すと、選択が確定されます。Ⓢキーが押されるとダイアログを中止してデフォルトの処理を行います。項目のハイライト表示は、カーソルキー ( F5 “ ” キーまたは F8 “ ” キー) または数字キー (1 または 2) で移動できます。</p> <p>p1 には次のいずれかを表示します。</p> <table border="1" data-bbox="311 1114 832 1297"> <tr><td>0 : 「はい」または「いいえ」を選択する。</td></tr> <tr><td>1 : 「開始」または「取消」を選択する。</td></tr> <tr><td>2 : 「再送」または「中止」を選択する。</td></tr> <tr><td>3 : 「確定」または「取消」選択する。</td></tr> <tr><td>4 : 「実行」または「取消」選択する。</td></tr> <tr><td>5 : 「強制入力」または「破棄」選択する。</td></tr> </table> <p>p2 には次のいずれかを表示します。</p> <table border="1" data-bbox="311 1358 832 1449"> <tr><td>0 : 最初にハイライト表示される項目はない。</td></tr> <tr><td>1 : 最初に左側の項目をハイライト表示する。</td></tr> <tr><td>2 : 最初に右側の項目をハイライト表示する。</td></tr> </table>	0 : 「はい」または「いいえ」を選択する。	1 : 「開始」または「取消」を選択する。	2 : 「再送」または「中止」を選択する。	3 : 「確定」または「取消」選択する。	4 : 「実行」または「取消」選択する。	5 : 「強制入力」または「破棄」選択する。	0 : 最初にハイライト表示される項目はない。	1 : 最初に左側の項目をハイライト表示する。	2 : 最初に右側の項目をハイライト表示する。
0 : 「はい」または「いいえ」を選択する。										
1 : 「開始」または「取消」を選択する。										
2 : 「再送」または「中止」を選択する。										
3 : 「確定」または「取消」選択する。										
4 : 「実行」または「取消」選択する。										
5 : 「強制入力」または「破棄」選択する。										
0 : 最初にハイライト表示される項目はない。										
1 : 最初に左側の項目をハイライト表示する。										
2 : 最初に右側の項目をハイライト表示する。										

<p>ESC[&lt;pnC</p> <p>標準アプリケーションVer.1.20以降が必要です。</p>	<p>ESC[&lt;p1;p2D でのダイアログ表示の代わりに自動で処理を継続させます。 ダイアログを表示する必要がなく、強制的にどちらかを選択させたい場合にはこちらが便利です。 また、次のダイアログ表示が有効な場面でのみ機能します。</p> <p>グローバル   レコード確認メッセージ BOX   マッチング検査オプション   強制入力メッセージ BOX   検索オプション   強制入力メッセージ</p> <p>pn には次のいずれかを指定します。</p> <table border="1" data-bbox="308 520 925 611"> <tr> <td>pn</td> <td>: 初期選択</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>: ダイアログの右側の項目が選択されたものとする</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>: ダイアログの左側の項目が選択されたものとする</td> </tr> </table>	pn	: 初期選択	0	: ダイアログの右側の項目が選択されたものとする	1	: ダイアログの左側の項目が選択されたものとする				
pn	: 初期選択										
0	: ダイアログの右側の項目が選択されたものとする										
1	: ダイアログの左側の項目が選択されたものとする										
<p>ESC[&lt;pnV</p> <p>標準アプリケーションVer.1.20以降が必要です。</p>	<p>ブザーを鳴動させる際に、同時にパイプを作動するか設定します。</p> <p>pn には次のいずれかを指定します。</p> <table border="1" data-bbox="308 730 721 890"> <tr> <td>pn</td> <td>: 初期選択</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>: ブザーのみ</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>: パイプのみ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>: ブザー &amp; パイプ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>: システムメニューの設定</td> </tr> </table>	pn	: 初期選択	0	: ブザーのみ	1	: パイプのみ	2	: ブザー & パイプ	3	: システムメニューの設定
pn	: 初期選択										
0	: ブザーのみ										
1	: パイプのみ										
2	: ブザー & パイプ										
3	: システムメニューの設定										
<p>ESC[&lt;p1;p2A</p> <p>標準アプリケーションVer.1.20以降が必要です。</p>	<p>最後に受信したレスポンスを p2 桁目（先頭は 0 桁目）から最大 p1 桁を表示します。</p>										
<p>ESC[&lt;pnP</p> <p>標準アプリケーションVer.1.20以降が必要です。</p>	<p>レスポンス受信時やメッセージ受信時に、画面を停止してキー待ちになる機能を抑制 / 抑制を解除します。</p> <p>一旦変更すると、電源が入っている間は有効になります。</p> <p>pn には次のいずれかを指定します。</p> <table border="1" data-bbox="308 1209 818 1302"> <tr> <td>pn</td> <td>: 初期選択</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>: 画面停止しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>: 従来どおり、受信後に画面を停止する</td> </tr> </table>	pn	: 初期選択	0	: 画面停止しない	1	: 従来どおり、受信後に画面を停止する				
pn	: 初期選択										
0	: 画面停止しない										
1	: 従来どおり、受信後に画面を停止する										

<p>ESC[&lt;X</p> <p>標準アプリケーションVer.1.20以降が必要です。</p>	<p>BOX の再入力を行ないます。</p> <hr/> <p>BOX 送信後の PC からのレスポンスに、このシーケンスを加えて子機に送ることにより、子機はBOX の再入力を行ないます。この場面以外では無効になります。</p>
--	--





**付録3**

## 付録 3-1 イベントメッセージの概要

---

コンピュータから子機に送られるデータには、レスポンスメッセージと一般メッセージ以外にもう 1 つ、イベントメッセージがあります。イベントメッセージは一般メッセージと同様、コンピュータから子機に非同期的に送られるデータですが、他のメッセージと異なり、画面には表示されません。

標準アプリケーションでは、イベントメッセージをコマンド文字列として処理しています。イベントメッセージを使用すると、コンピュータから子機を操作することができます。なお、イベントコードには“STD700S”を設定して下さい。



イベントメッセージの詳細は別売のソフトウェア「CTR-S for WinSock」のユーザーズマニュアルをご覧ください。

---

## 付録 3-2 コマンドリファレンス

---

イベントメッセージには次のコマンドを記述することができます。複数のコマンドを指定する場合はセミコロン ( ; ) で区切ってください。

`COPY filename1 filename2`  
`filename1` を `filename2` にコピーします。

`DELETE filename`  
`filename` を削除します。

`UPLOAD filename`  
`filename` をコンピュータに送信 (アップロード) します。

`DOWNLOAD filename`  
`filename` をコンピュータから受信 (ダウンロード) します。

`EXEC F:STD700S.OUT paramfilename`  
アプリケーションを再起動します。  
再起動時には `paramfilename` で指定されたパラメータファイルを選択します。



# 索引



## 【英数字】

ActiveX.....	3
EOF コード .....	4
ID レコード .....	4
Visual Basic .....	3

## 【あ】

一般メッセージ.....	20
イベントメッセージ .....	62
エスケープシーケンス.....	56
エラーメッセージ.....	19
オートパワーオフ .....	3, 37

## 【か】

カーソル移動 .....	13
拡張エスケープシーケンス.....	59
圏外 LED.....	19
検索 .....	4
固定データ BOX.....	13

## 【さ】

サーバープログラム .....	3
最小桁数 .....	11
最大桁数 .....	11
サブチャンネル .....	4
システムメニュー .....	2, 37
シフトロック .....	10
ジャーナル.....	2, 31
ステータス行 .....	10
送信レコード数.....	10

## 【た】

タイムアウト .....	20
チャンネル .....	4
データ転送モード .....	27
データファイル.....	32
デコードトリガ.....	28

テンキー .....	3
電波レベル .....	10
動作モード .....	26
登録メッセージ .....	14, 40

## 【な】

二度読み.....	31
入力レコード数 .....	10
ノーマルトリガ .....	28

## 【は】

バーコード入力 .....	8, 9
バージョン情報 .....	37
バックライト.....	3, 13, 37
バッテリーメーター .....	10
パラメータファイル.....	34
パワーセーブ.....	28
ファイル送信.....	27
ファイル名 .....	43
ファンクションキー .....	12
プリンタ.....	2, 31

## 【ま】

マニュアル入力 .....	3, 8, 9, 29
未送信レコード .....	19
メモリバックアップ .....	5

## 【や】

読み取りスイッチ.....	2, 3, 9
---------------	---------

## 【ら】

リリーストリガ .....	28
レーザー照射時間.....	28
レコード確定モード .....	14
レコード送信.....	18, 27
レスポンスメッセージ .....	20
レスポンスモード.....	15



このマニュアルの著作権は株式会社ウェルキャットにあります。  
このマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製、転載することをお断りします。

SS 無線レーザーリーダー CTR-700  
標準アプリケーション マニュアル

---

2002年9月 第5版 発行

株式会社ウェルキャット

本社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜 1-17-12 IWATA ビル  
TEL : 045-474-9800 FAX : 045-474-9815  
大阪営業所 〒532-0011 大阪市淀川区西中島 5-7-19 第7新大阪ビル  
TEL : 06-6307-0502 FAX : 06-6307-0504

Homepage <http://www.welcat.co.jp/>

E-mail [info@welcat.co.jp](mailto:info@welcat.co.jp)

Copyright©1999 Welcat Inc.

---

落丁、乱丁はお取り替え致します。

M05CTR701ap

株式  
会社 **ウェルキャット**

本 社 横浜市港北区新横浜 1-17-12 IWATAビル  
〒222-0033 TEL : 045(474)9800 FAX : 045(474)9815

大阪営業所 大阪市淀川区西中島 5-7-19 第7新大阪ビル  
〒532-0011 TEL : 06(6307)0502 FAX : 06(6307)0504